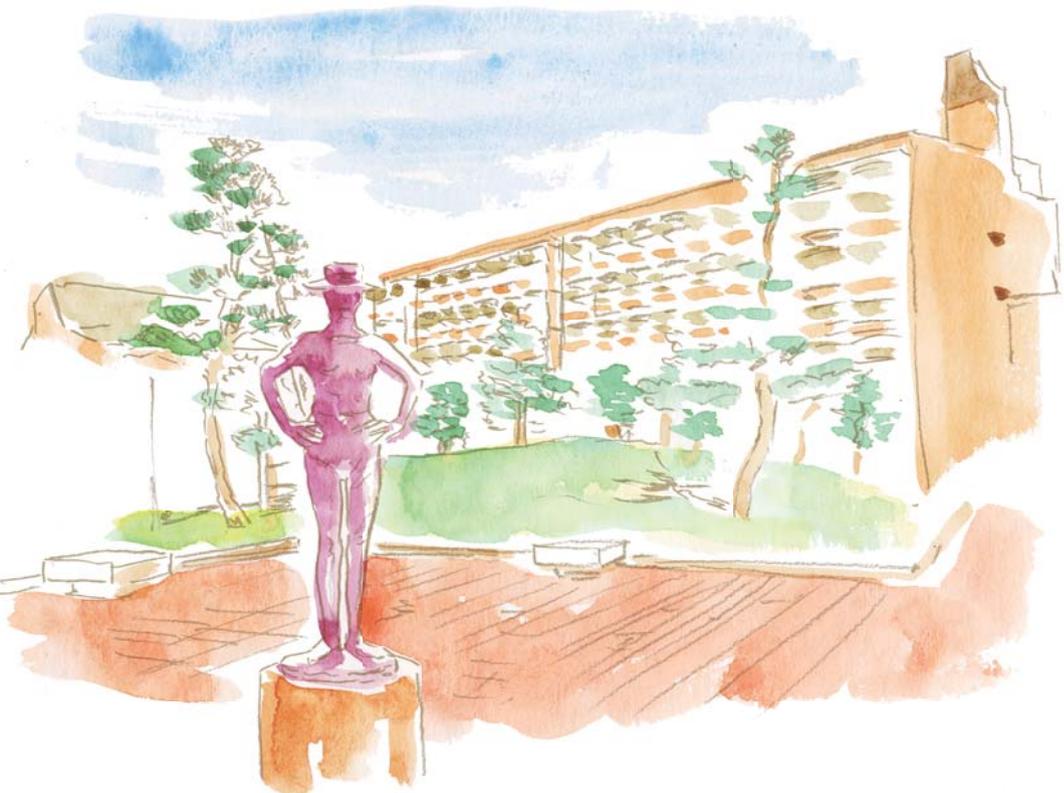




あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 15 学長エッセイ
- 14 CAMPUS NEWS
- 13 サークル紹介
- 11 卒業生の仕事場訪問
My way MG way
- 09 ACTION
学生時代の今だから
できること、生かせること。
- 07 特集
国・人・文化を結ぶ交流の担い手に
KAKEHASHIプロジェクト
活動報告
- 05 「詩の本質的な力」を学ぶ
「地域と社会の仕組み」を学ぶ
学問へのいざない
- 01 誌上ゼミ
実践から身につける
心理学の基礎

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。



Letter Essay

葛藤の中から —宮城学院の精神を訪ねて(6)—

押川らの旅は1880年9月6日に始まった。懐妊中の夫人だけが人力車に乗り、幼子(数え年5歳と2歳)と大人は徒歩である。信州を経て横浜まで陸路を旅し、海路3日間を経て塩釜に上陸し、9月26日、仙台に到着した。新潟を出発してから21日後のことである。

押川らは貧困と病苦の中で直ちに仙台伝道を始め、翌年、仙台基督教会を設立した。数年後には教会員が百名を超え、さらなる展開を待っていた。そして、その時を待っていたかのように来日した宣教師W.E. ホーイは、押川の熱意にほだされて仙台を活動の拠点に定め、協力して仙台神学校(東北学院の前身)と宮城女学校(宮城学院の前身)を設立した。1886年のことである。

当時の法的制約から、設立責任者(校主)は日本人の押川だった。しかし、実際に若い日本人女性を教える教師には、宣教師の公募に応じた若いアメリカ人女性二人が選ばれ来日した。エリザベス・R・プールボー30歳とメアリー・B・オールト21歳である。

設立当初の宮城学院は、アメリカ文化に対する興味も手伝って人気を博したが、やがて、ひとつの問題が表面化した。ある種の真面目人間である彼女たちは、生徒たちを理想的な「米国人女性」に育てようとした。しかし、文化的土壌が違う土地で、いきなりそのような教育を試みても、成功は難しい。生徒たちの中から5名の「反逆者」が出て、彼女たちは、結局、退学処分になった。

その時以来130年に及ぶ歴史の中で、宮城学院はさまざまな試練に直面し、そのつど克服してきた。今また、迫りくる困難の中で、我々は模索している。この模索が成功裏に終わるか否かは、現状に対する伶俐な分析能力と宮城学院の伝統に対する愛惜、この二つに懸かっている。

宮城学院女子大学 学長 海野 道郎

MG archives

シップル先生授業風景
昭和32年(1957)

宮城学院に保育科がつくられたのは、1955(昭和30)年。翌年、保育科の認可条件であった附属施設として、幼稚園が開設されました。保育科設置に力を尽くし、幼稚園初代園長を務めたのが、エドナ・M・シップル先生です。



宮城学院ではシップル先生のもと、当時としては珍しいアメリカ式の自由保育を実践しました。多くの幼稚園で行われていた教室型の授業ではなく、遊びを活動の中心にし、自主性・自発性を尊重する教育です。保育科のカリキュラムも、自由保育を基盤にしていました。

保育室の部屋を区切らず、木工道具や絵本、人形などを用意し、子どもが自発的に遊びに入っていける環境のもと、一人一人の個性を尊重する教育が行われていたのです。

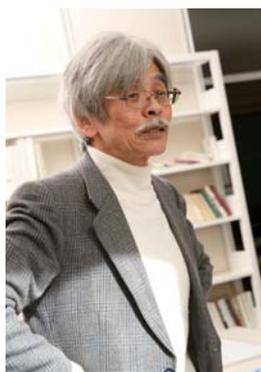
(写真・文 宮城学院資料室)

実践から身につける 心理学の基礎

まず、自分で行動する。そこから広がる学問への探究心

スタート地点の1年生だからこそ
基礎となる
考え方をとことん体得する

佐々木 心理学とは、誰も覗くことのできない人の「ところ」を、科学的な測定に基づいて解明していく学問です。その研究方法は実験やデータ収集、統計など多岐にわたるため、学生は机の上で知識を



佐々木隆之教授

詰め込むだけでなく、自分の手を動かして学ぶスキルが求められます。

感情心理学やパーソナリティ心理学、スポーツ心理学や音楽心理学など様々な専門分野がありますが、学習のスタートラインにいる1年生の皆さんにとって最も重要なのは、特定の知識を得ることよりも、多彩な「実践」を通して心理学的な考え方を身につけることです。

私の専門は音楽の知覚認知心理学ですが、こちらのゼミでは、認知心理学でよく扱われる「錯覚」、中でも錯視現象を取り上げ、目から入った様々な情報がどのように処理されるか、私たちの行動や心の動きにつながっているかを体験的に学びました。



心理行動科学科 佐々木 隆之教授

【1年実践セミナーの皆さん】

井上わか菜さん、上野瑠慈さん、
金野有沙さん、佐々木ユリ香さん、
佐藤麻奈津さん、三浦万知さん、
森杏奈さん、山形真輝さん

三浦 入学当初は、目や耳の錯覚が心理学に関係しているとは思いませんでした。けれども、授業で勉強したり、自分で調べていくうちに、多くの心理学者が錯覚をテーマに研究していることを知って、興味を持ちました。

金野 私は、ゼミの活動を通じて錯覚の



井上わか菜さん



上野瑠慈さん

面白さを実感しました。また、パソコン操作の経験も、将来に生かせるのではないかと思っています。

佐々木 本や資料を読み込んで発表するスタイルのゼミと違い、パソコンでパターンを作ったり、出力したものを切ったり、貼ったり、手作業中心の活動を行ってききました。はじめは何のための作業なのかかわからないという人も多かったかもしれませんが、この1年間で印象に残った活動を振り返ってみましょう。

目の錯覚がおきる不思議な絵本に 子どもたちは興味深々

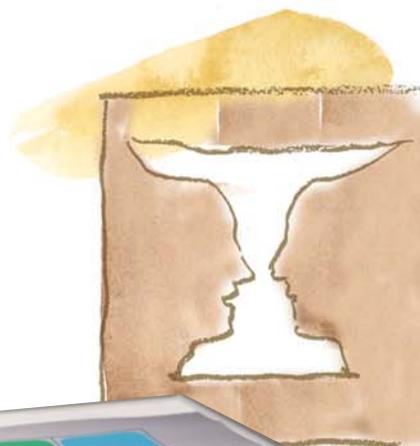
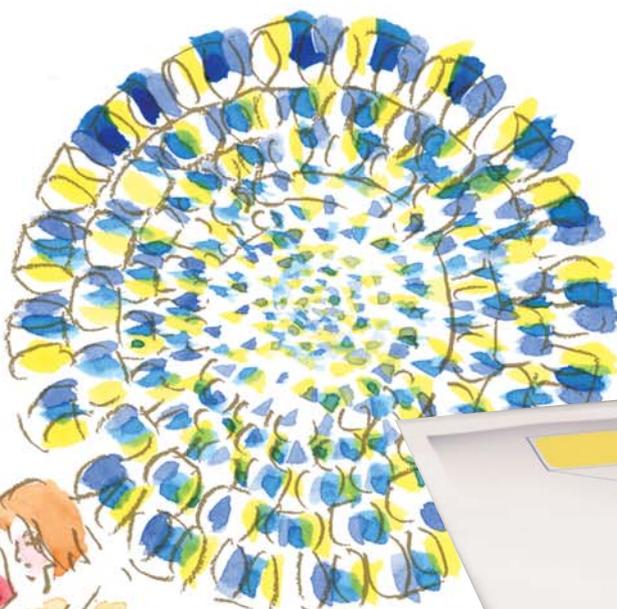
佐々木 本ゼミの具体的な活動として、皆さんは数名のグループまたは個人に分かれ、目の錯覚を利用した作品を作りました。いろいろと苦労した点や工夫した点があったのではないですか。

森 私たちは、絵本「さくらんぼのかくれんぼ」づくりに挑戦しました。さくらんぼ

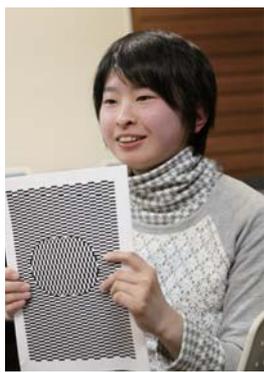
の兄弟を主人公に、2つの同じ絵が背景を変えることで違う大きさに見えるたり、色が変わって見えたりする仕掛け絵本です。子どもが好むカラフルな色使いと錯覚を同じ紙面で表現しなければいけない点がとても大変で、作っては直し、作っては直しを何度も繰り返しました。

佐藤 読み手の反応を考えながら、みんなでアイデアを出し合い、チームワークで作りました。パワーポイントを使いこなすのに苦労しましたが、楽しかったです。

佐々木(ユ) 頭で思い描いたものを形にすることは、想像以上に難しかったです。はじめにストーリーを固めてしまうと錯覚を組み込むのが難しくなり、逆に「この錯覚が面白いから使おう」と先に決めてしまうと、ストーリーとして成立しないという具合です。悩んだ末、最終的にはグループの4人それぞれがページずつ担当して作成し、それらを何とかうまくつなげて完成させました。



森杏奈さん



山形真輝さん

三浦 幼稚園の子どもたちにお披露目した時は、本当に楽しんでもらえるのか心配でした。ナレーションをクイズ形式にするなど、工夫を凝らし、無事発表することができました。

佐々木 子どもにも錯覚が起こるのか、発表前は不安でした。でも、園児の皆

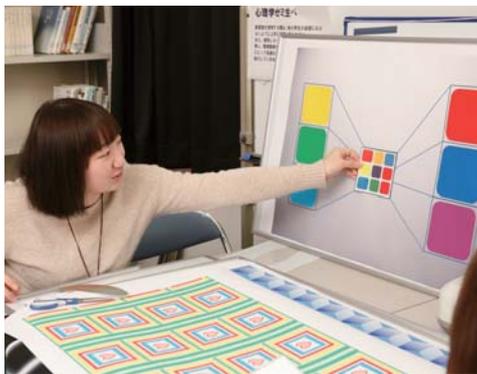


さんはとても楽しそうな様子でした。苦
労した甲斐あって、予想以上の成果に
なっていたのだと思います。

**作品完成まで何度も試してはやり直し
その努力が今後の学びの礎に**

佐々木 絵本の他にも、目が見る仕
組みを利用して、創造性豊かな作品をつ
くってみました。

上野 私たちは、ルービックキューブをモチ



一つに「色彩の錯視」を作りました。本来
同じ色なのに、周りの色と干渉し合っ
て違う色、明るさに見えるというものです。

井上 パソコンの画面上できれいに見えて
も、出力すると色が変わってしまい、その
修正が大変でした。パソコンと出力紙を見
比べながら、1色1色微妙な調整を重
ね、どうにか完成させた時は本当に安心
しました。私はパソコンが苦手でも自分で
できるかどうか心配でしたが、大分使いこな
せるようになったので嬉しいです。

上野 ゼミの活動を通して、あれこれと
試行錯誤を重ね、納得できるものを作る
力が身についたように思います。

金野 私は「ホローフェイス」という、実際
はへこんだ顔が、光の当て方によって通常
の出っ張った顔に見える錯視を担当しま
した。アニメのキャラクターのお面をへこま
せた状態で作り、どの位置からライトを
当てれば効果的か検討を重ねました。

ません。作品をその場で動かして色を比べ
て見せるなど、足を運んでくださった方へ
の説明の仕方を工夫しました。

井上 初めて心理学的なものに触れる
方も多く、説明して「すごい」と感想を
言われた時は、作品が出来上がった時と
また違った達成感を味わいました。

森 幼稚園での発表は、園児みんながス
トーリーに参加しながら、それぞれの錯
覚にしっかりとリアクションをとってくれ
ました。園の先生からお褒めの言葉をい
ただいて、嬉しかったですね。

佐々木 広く一般の方へ発表することは、
学生としてのみならず、社会で活躍する
ために必要なプレゼンテーション力の向
上にもつながります。

また、こうしたプロセスを経て、自分が
学んでいることを改めて認識し、今後進
むべき方向性を考えるきっかけにもなっ
たのではないのでしょうか。

佐藤 私は、人と人との関わりの中で生

山形 私は、静止画なのに動いて見える
「動く錯視」を、パソコンのエクセルを使っ
て作りました。作品の性質上グループでは
なく単独作業だったため、迷った時は先
生に相談し、アドバイスをいただきました。

エクセルは未経験だったので、慣れるまで
大変でしたが、面白い作品に仕上がって
満足です。

佐々木 一つのことを完成させるまで試
行錯誤した経験は、今後の研究や卒論
など、大学生活のあらゆる場面で必ず役
に立つと思いますよ。

**発表の場で磨くプレゼンテーションカ
ラが楽しみもぐんと広がる**

佐々木 皆さんの作品は、大学祭やオー
プンキャンパス、コロナイコロ2013など
において「視覚イリュージョン」と題した展
示・発表を行いました。また、現在ではゼミ
活動の集大成として、学外での展示・発



佐々木ユリ香さん



三浦万知さん

まれる感情を学びたくてこちらの学科へ
進みました。ゼミの活動を通して、脳や目
が間違っている錯覚と、人の感情はどち
らも無意識のうちに生まれるという共通
点に気づき、そういう意味で心理学の
様々な学びは根底でつながっているんだ
と感じました。



金野有沙さん



佐藤麻奈津さん

表に向けた準備を進めています。

自分の活動成果の発表、これもゼミが
目指す実践の一つです。発表を通して得
たものは多いと思いますが、いかがですか。

上野 どんなに素晴らしい作品も、ただ
展示しているだけでは関心を持ってもらえ

佐々木(ユ) まずは自分で動いてみよ
う、という意識が身に付きました。パソコン
を使ったり、自分でもものを作ったり、通常
の授業とは違った体験ができたことで、心
理学という学問の奥深さを知ったととも
に、これから学びたいと思う分野が増え
ました。

山形 普段の生活ではなかなか気づかな
いけれど、心理学で扱うのはとても身近
にある物事だということが分かりました。
勉強すべきことはまだまだたくさんあって、大
切なのはむしろこれから。残り3年間、多
くのことを吸収したいですね。

佐々木 1年次から実践的なゼミで学べ
ることは、本学科ならではの強みであり
大きな魅力です。

2年次以降の学習は、より専門的で
難度も高くなりますが、ここで培った自ら
行動する力、そして心理学的な考え方
を存分に発揮し、実りあるものにしてほ
しいと思います。





「地域と社会の仕組み」を学ぶ

人間文化学科 土屋純教授

地理学は、学問分野では珍しく理系と文系に大別されています。地形や気候等の自然現象を扱う自然の地理学に対し、私が担当するのは都市や経済、文化といった人の営み全般を扱う人文地理学です。

どんな地域にも特有の自然環境があり、暮らす人々がいて、独自の産業や文化が発展しています。人文地理学は、こうした様々な事象のつながりから地域の成り立ちや仕組みを総合的に紐解く学問です。

一つの町を地理学的に研究すれば、地域の全体像を捉え意外な魅力や問題点を発見でき、物事を多角的に考えられるようになります。経済学や文化人類学、民俗学等多様な学問の教養を身につけ、学生にとっては社会と向き合う糸口にもな

**様々な学問と関連しながら
横断的な学びができる地理学**

る、とても実用的な学びといえるでしょう。私が専門にしているテーマは流通です。地域の流通システムと人々の暮らしから現代の経済的・社会的仕組みを考察しています。近年の調査対象は日本の農山村や南アジアの国々。現地で人々とふれあいがらの調査活動は実に興味深く、地理学ならではの醍醐味です。その楽しさを学生にどんどん伝えていきたいと思っています。

**主体性を持った研究を通し
豊かな感性と人間的魅力を育む**

授業やゼミにおいて重要視しているのは、フィールドワーク（野外調査）と地図の活用。いずれも地理学的研究の要です。フィールドワークは実際に現地へ赴き、住民の方へ聞き取りをしたり、資料を集めるなど自分の足を使って行う調査です。研究場所は大学や図書館だけではありません。机上では得られない観察眼や行動力

を養う貴重な機会になっています。

また、人が頻繁かつ広範囲に動く現代社会に欠かせないのが地図です。多彩な情報をもとに読み取り、どんな場面で活用するかを学ぶことで、日常のあらゆるシーンに役立てることが出来ます。

こうした手法を用いながら、学生にはテーマ設定から調査まで、主体的に動くよう指導しています。興味のない情報は素通りしがちな学生時代だからこそ、地理を通して幅広い分野に関心を持ち、自ら行動する人間力を磨いてほしいですね。



Profile

群馬県出身。名古屋大学大学院文学研究科博士課程満期退学。博士（地理学）。日本学術振興会特別研究員、名古屋大学大学院環境学研究科助手を経て2003年より現職。
○信条「できることから始める。」

私のおすすめ本

**もっと知りたい
日本と世界のすがた
流通システム** (古今書院)
土屋純・兼子純 編

「日本と世界のすがた」は日本及び世界の諸地域を一通り学ぶことができ、大人の読み物としてもおすすめです。「小商圏時代の流通システム」は、大商圏型から小商圏型へ転換期にある現在の日本で、今後求められるきめ細かい流通のあり方を問う内容です。



これが学びのツボ！

地域を研究する際は、実際に現地へ足を運ぶこと。イメージが広がり、面白い答えに必ず出会えるでしょう。また、何事も周りの様々な事象と関連づけて理解すること。知識を横に広げること、自分の世界もぐんと開けます。



「詩の本質的な力」を学ぶ

日本文学科 九里順子 教授

学問への
いざない

**歴史的な流れを意識することで
表現の深みを知る**

北村透谷、室生犀星等の日本の近代詩を専門としています。現在は、昭和のモダニズム詩人であり、俳句も作った北園克衛について、詩と俳句の成立地点を探るべく、研究に取りかかっているところです。

文明開化とともに、詩歌も和歌や俳句といった旧来のスタイルに対し、西洋のポエトリーを手本にした「新体詩」が言挙げされ



**心から発した自分の言葉が
次元を超えて新たな世界をつくる**

詩は、予め決まったことを伝えるのでは

ありません。近代詩が一朝一夕で成立したのではなく、先行世代をどのように受容し、新たな領域を拓いたのかを知り、問題意識を探ろうとする姿勢が大切なのです。

詩人とその作品は、決して一対一の関係ではありません。近代詩が一朝一夕で成立したのではなく、先行世代をどのように受容し、新たな領域を拓いたのかを知り、問題意識を探ろうとする姿勢が大切なのです。

こうした時代的変遷を知ることが、詩を学ぶ上で最も基本となる部分。学生には歴史的な視点と想像力を働かせるよう指導しています。文学史の講義では、詩史に沿って詩人や作品を選択し、表現に深く関わる時代背景や影響関係を視野に入れた学習を心がけています。

なく、何かに心を動かされ言葉を発することの根源的な意味へと思考を誘ってくれます。言い換えれば、言葉が私たちの心の底にある何ものかを引き出す、その現場に立ち合わせてくれるのです。

詩は難しいという先入観で見られがちですが、それは自分の存在を問う地点に降り立っているから。情性で理解したつもりになれる言葉は拒絶されます。

詩を学ぶとは、詩人たちの作品を通して自分の身辺だけの世界を抜け出し、戸惑いと向き合い、自分の言葉の殻を破って世界観を組み替えていくことです。

言葉は全てのコミュニケーションの源。どのように捉え、用いるかはその人の生き方に直結しています。自分の発する言葉が歴史の流れのどこに位置するかを認識できれば、おのずと自分の立ち位置も見えてくるでしょう。ぜひ自分の視点、言葉で、自分の文体を作りあげてほしいと思います。

Profile

福井県出身。北海道大学大学院博士後期課程単位修得退学。博士（文学）。1992年に本学に着任。著書に「明治詩史論—透谷・羽衣・敏を視座として—」（和泉書院）、「室生犀星の詩法」（翰林書房）「句集 静物」（邑書林）。 ○信条「心が動いたら、行動する。」

私のおすすめ本

私の現代詩入門 エクソフォニー
(思潮社・詩の森文庫) (岩波現代文庫)
辻征夫 著 多和田葉子 著

「私の現代詩入門」は、詩人である著者が感想をつぶやくつ、各詩人の本質を掴んでいきます。この通路に注目を。「エクソフォニー」は、ドイツ語でも小説を書く著者の言葉の揺らぎと境界性への考察が、言葉は生きていることを実感させてくれます。



これが学びのツボ！

詩＝難しい、と決めつけず、詩人それぞれのクセを探しつつも読んでみてはいかがでしょうか。意味の伝達では満たされない心が、表現へと駆り立てるのです。そんな表現の受け渡しが詩の歴史を作っていきます。

KAKEHASHI プロジェクト活動報告



リバーサイドシティ・カレッジ大学 (RCC) で6月に来日したメンバーと再会し、お互いに発表やデモンストレーションを行いました。



RCC学長Dr. Cynthia E. Azariがご自宅で歓迎パーティーを開いてくださいました。



アメリカでの聴衆は、一緒に歌を口ずさみ、驚きを素直に表現し、様々な質問も投げかけてくれました。その反応の良さに、発表は毎回磨かれていきました。

本学は、外務省が推進し国際交流基金が実施する「北米地域との青少年交流 Kakehashi project - The bridge for tomorrow -」に採択され、昨年11月に23名の学生をアメリカへ派遣しました。渡米前のプレゼン準備、2週間にわたる現地での交流活動、そしてプロジェクトの成果や感想を学生自らが発表した帰国報告会についてご紹介します。

日本と宮城をPRしたい！ 意欲ある学生が結集

若い世代の交流を通して日米の相互理解を深め、将来の国際交流の担い手となるグローバル人材育成を図る「KAKEHASHIプロジェクト」。派遣された学生は、日本及び地方の魅力等を英語でプレゼンテーションするほか、各都市において企業や大学訪問、民間交流等を行うものです。

アメリカからの学生受け入れ実績を持つ本学は、日本からの派遣第一弾となる11月1日から14日の期間、神戸や北九州の3大学とともに学生を送り出すこととなりました。

全ての学科を対象に参加者を募集したところ、応募は定員を大幅に上回る110名に。書類選考及び英語でのプレゼンテーションによる審査を経て、5学科23名の学生が選ばれました。

プレゼンの準備にスピーチ練習 渡米まで試行錯誤の毎日

選ばれた23名は、アメリカに渡る直前までプレゼンテーションの準備と練習の日々。15分という限られた時間の中、どのようにアピールすればアメリカの人々に興味を持ってもらえるか。東日本から

の参加大学は本学のみということもあり、学生たちの誰もが日本のみならず地元宮城の魅力伝えたいという思いを強くしていました。

今回は、4グループに分かれて「日本の心」「東日本大震災」「日本人学生・生徒の日常生活あれこれ」「現代日本の未知な魅力」といったテーマを設定。それぞれ何度も話し合いを重ね、英語でのスピーチ練習はもちろん、スライド用の資料づくり、歌やBGM、効果音などの表現手法に至るまで随所に工夫をこらし、自分たちなりのプレゼンスタイルを構築していきました。

伝える力を磨き、 アメリカの人々から共感を得られた

いよいよ11月。最初の訪問地であるイリノイ州シカゴにて、KAKEHASHIプロジェクト本番がスタートしました。

今回初めてアメリカの地を踏んだという学生も多く、ルースベルト大学で行った最初のプレゼンテーションでは緊張した面持ちが目立ちました。しかし、発表後は次第に打ち解け、学生同士交流することができました。また、革新的な建築会社と日米の企業をつなぐ法律事務所との2カ所を企業訪問し、とても興味深い体験となりました。

いですね」と語っておられました。

貴重な経験を将来に生かし、 新たなステージで、架け橋に

1月16日に開催された「帰国報告会」では、代表のグループが、実際にアメリカで行ったプレゼンテーションを披露。日本と宮城の魅力を伝えるために工夫したことや、それらに対するアメリカの人々の反応などを詳しく解説しました。

渡米前の日本での全体練習の時から、原稿やメモは切使わないことを徹底し、徐々に反応を見ながらアドリブも交えるなど完成度の高いものに。



交流はその後の昼食時まで続き、言葉の壁を越えて若者らしい話題で盛り上がりました。各地で名残惜しい別れを経験しました。



プレゼンテーションは大学だけでなく地域のYouth Opportunity Centerなどでも行い、幅広い年齢層の人たちと交流しました。



引率した4大学の教員と現地ガイドが2週間のプログラムの成功を(内心へとへとで)祝いました。

続いて、仙台市の姉妹都市として知られるカリフォルニア州リバーサイド。シティカレッジでは、昨年6月に本学を訪れた学生さんと再会することができ、大いに盛り上がりました。

プレゼンテーションを行うたび課題を見つけ、改善を図ったため、どのグループも伝える力が徐々に向上。中には笑いをとるグループも見られるようになり、学生たちに余裕と自信が生まれました。

出会いと交流の輪が広がる中、大きく成長した2週間

最後にサン・フランシスコ周辺地域を訪問。スタンフォード大学では日本語を学ぶ学生と演習へ参加し、意味を伝え合う楽しさを実感しました。演習後は校内を案内してもらい、新たな友情を育んだ学生も多かったようです。

他にも各地で素晴らしい出会いがあり、実りの多い時を過ごして帰国の途につきました。

今回引率されたフレンダ・ハヤシ教授、木村春美准教授は、アメリカでの滞在を振り返り、「初めは一方通行のプレゼンさえ大変だった学生たちが、自分からイニシアチブをとってコミュニケーションできるまでに成長しました。この経験を今後どのように生かしていくのか、期待を込めて見守っていました。

Action

学生時代の今だから できること、生かせること。

資格の取得、ボランティア、アルバイトなど
学業と両立して様々な活動ができるのは、学生ならではの強み。
サークル活動や企業とのコラボレーションもその一つです。
スポーツに打ち込んだり、社会とつながることで
一歩先の自分に会えるかもしれません。

ラクロス部

ラクロスの魅力をチーム一丸で発信
よりアグレッシブなプレーで目指すは全国大会！

ラクロスは、北米で生まれた華麗でハ
ードなフィールド競技。カナダの国技として
も知られ、世界の競技人口は60万人とも
言われています。

私たちは週に5日、1年生から4年生
までの33名（4年生引退後は23名）で活
動。毎年8月〜10月に行われる東北地
区リーグ戦優勝と11月の全国大会出場
を目標に掲げ、全国各地で遠征や合宿を
行うなど日々練習に励んでいます。

2013シーズンは、東北地区リーグ
戦で目標とする優勝を勝ち取ることがで
きました。そして全国大会への切符をか
けて中国・四国地区及び九州地区代表と



試合を行いました。が、
惜しくも敗戦。夢に見た全国大会出場を果
たせないままシーズンを終えました。この経
験をバネに、2014シーズンは新たな気持
ちで全国を目指したいと考えています。

私たちは、誰もがラクロスに情熱を燃やす
ため大学へ入学したわけではありません。そ
れぞれ叶えたい夢があつて入学しました。け
れども、他の競技にはないラクロスの魅力、
そしてかけがえない仲間たちに出会い、惹
かれるように集まった集団です。

今後も他を魅了するようなサークル作り
に努め、より多くの方々にラクロスというス
ポーツを知ってもらいたいと思っています。



競技ダンス部

東北ブロック選手権大会で団体戦を連覇中！
さらに上を目指し技術を磨いています。

競技ダンスは男女2人のペアで踊り、芸術性を競
うもの。将来はオリンピック競技としての採用も見
込まれるほど世界中で愛されるスポーツです。
本学の競技ダンス部は東北大学と提携して、年3
回の東北ブロック大会では、参加5大学中、団体優
勝を飾るなど素晴らしい成績を収めています。

入部当初は誰もが初心者。先輩からのマンツーマ
ン指導で練習を重ねるとともに、他大学と合同で
合宿を行い、競技者としてのスキルを高めます。

活動の成果は各種大会で発揮。東北ブロックの
みならず日本中の強豪が集う全国大会や、子ども
から社会人まで参加するアマチュア大会へ出場す
ることも。遠征先で多様な競技者と切磋琢磨する
ことで、さらに成長しています。



また、華やかな衣装もダンスの魅力。オーダーやレ
ンタルのほか、卒業した先輩から譲り受けることも。
東北トップクラスの実績に慢心せず、「ペアとして個

人戦優勝、団体は全国大会優勝を目標に頑張りま
す」と語る沼倉幸子さん



沼倉幸子さん



井上詩織さん

（日本文学科3年）、井
上詩織さん（生活文化デ
ザイン学科3年）。来年
度は部を率いる立場とな
る二人も一層練習に熱が
入ります。今後も競技ダ
ンス部の活躍から目が離
せません。

企業連携

学生らしい発想を販促につなげる
NTTドコモのプロモーション支援

（株）NTTドコモが展開するタブレット端末の
販売促進に、本学広報インターンスタッフの学生が
アイデアを提案する産学連携の取り組みがスタ
トしました。

学生たちは3名ずつ6班に分かれ、若年層の利
用拡大を図るプロモーション案を作成します。2月
開催のプレゼン大会で上位となったものは、実際に
2014年度、販促の現場
で採用される予定です。

自由な感性と枠にとらわ
れない発想が試されるとと
もに、社会と関わる貴重な
機会。今後の動向にどうぞ
ご期待ください。



株式会社明治
管理栄養士
齋藤圭子さん

現在の職に就かれたきっかけは？

大学卒業後すぐに委託給食会社に入社しました。一年半ほど実務を経験したことで視野が広がり、以前から興味があった食品会社への転職を考えるようになったんです。情報収集のために大学を訪れた際、運よく現在の会社の求人を見つけ、面接を経て入社することができました。

入社後は栄養で選手を強くするスポーツ栄養に携わる機会が増え、管理栄養士の資格をより専門的なフィールドで生かしていくことに魅力を感じました。

——スポーツ栄養の仕事という点、具体的にどのような内容なのですか？

スポーツ選手のパフォーマンス向上のために、食事やサプリメントといった栄養面からサポートする仕事です。スポーツにおける栄養の重要性が叫ばれる昨今、現場でのニーズも高まっています。

現在は、野球やサッカーをはじめとする、



東北楽天ゴールデンイーグルスの新入団選手への栄養講座。選手も真剣そのものです。



スポーツ栄養に仕事をするには様々な情報にアンテナをはることが大切、と齋藤さん。

もっと強く、速く、しなやかに。
アスリートの競技力を
質の高い栄養でサポートしたい。

——仕事を通じて成長したことは？

常に一步先を読み、次に何が起こるかを予測して準備する習慣ができました。また、たくさんの人と関わる仕事なので、相手の立場で物事を考え行動するよう心がけています。

こうした成長も、大学時代の4年間に培った基礎知識や取得した資格が自分の土台になっているからでしょうね。

——これからの目標、そして私たち後輩へのアドバイスをお聞かせください。

この仕事に出会えた縁を大切に、今後も一人でも多くの競技者や子どもたちに、栄養で広がる可能性や食事の大切さを伝えていければと考えています。

大学、転職を通して私が実感したのは、どんな経験からも必ず得られるものがあるということ。在学生の皆さんもぜひ学生時代にしかできない様々な経験を積んで、将来に生かして欲しいですね。

ジュニアからプロに至るまでの選手、指導者、保護者に対し、それぞれの競技特性や目標を考え、カラダづくりや体調管理ができるよう、栄養指導等を行っています。

さらに、夏は暑く冬は寒いスポーツの現場で練習や試合を見学したり、遠征やキャンプのための移動に同行することもあるので、体力も必要な仕事なんです。

——選手を縁の下で支えているのですね。どんな時にやりがいを感じますか？

筋力アップや減量、ケガからの早期復帰といった個別の課題に対し、栄養面から解決策を考え提案していくわけですが、そのためには選手一人ひとりの状況や考え方、目標、場合によっては育った環境までを考慮する必要があります。

人と人の関わり合いという点では難しさを感じる時もありますが、提案を受け入れ実践した選手が試合で素晴らしい結果を出した時は、自分のことのように嬉しいですし、とてもやりがいを感じますね。

株式会社 明治
健康栄養営業本部
スポーツ栄養マーケティング部 学術普及G

Profile 齋藤圭子さん

2005年食品栄養学科卒業。管理栄養士として委託給食会社に就職した後、2006年に明治製菓株式会社(現・株式会社明治)へ転職。現在はスポーツ栄養マーケティング部に所属し、東北楽天ゴールデンイーグルス、ベガルタ仙台及びジュビロ磐田育成年代をはじめ、飛び込み、ライフセービング等、多彩なジャンルのスポーツ選手を栄養面からサポートしている。

[取材]
広報室インターンスタッフ
長崎有希子(生活文化デザイン学科)

サークル紹介 01

ハンドメイド同好会
手づくりtime

- 部員数：11名
- 活動日：不定期
- 活動場所：主にD-401、その他家政館内

便利な時代だからこそ手づくりの良さを実感!

私たちは設立2年半ほどの同好会です。一般的にハンドメイドは個人作業ですが、私たちは“好きなものをつくる”をコンセプトに、同じ場を共有することでお互いを高め合っています。

お金を払えば何でも手に入る時代。だからこそ、手づくりすることで人の手の温もりを伝え、物への愛着や他と違った個性を生みだせると思います。何より自分好みの作品を作れることが魅力です。

ひと針に思いを込めて一歩ずつ成長。

私たちにとって大学祭は発表の場。日々の活動はこの時のためと言っても過言ではありません。

大学祭では展示だけでなく販売も行い、責任をもって作品づくりに臨むこともステップアップの1つになります。自分の作品がだれかの目にとまり、手に取ってもらえた時の嬉しさは、何にも代えがたい瞬間です。

授業以外の場でスキルを磨きたい人も、裁縫は学校の家庭科以来という人も、私たちと一緒に手づくりの素晴らしさを分かち合しましょう。



和やかな雰囲気
活動中!



皆様のあいに
なれますように!



部長
小野 陸月さん
(生活文化デザイン学科3年)

大学祭を大いに盛り上げた「みやーがーる」
初代グランプリは
日本文学科3年の菅野美紀子さん

10月19日、20日に開催された大学祭において今回特に注目を集めたのが、大学祭のイメージガールを決定する新企画「みやーがーる」を探せ!でした。



「みやーがーる」は、大学祭のマスコットキャラクター「みやーがーる」とともに大学祭を盛り上げる学生のこと。事前募集で5名が名乗りをあげ、中夜祭のステージで審査・投票を行いました。



自己PRでは小さい頃から親しんだ書道の腕前が披露。現在は茶道部で活躍中の菅野さん。

さでではなく、人間的な魅力を重視したいと考え、ファッションや自己PR、「問」答などさまざまな視点から審査を行いました」と大学祭実行委員の桑島さん。

ステージを観ていた一般の方も投票に参加してもらい、開票の結果見事グランプリに輝いたのは日本文学科3年の菅野美紀子さん。友人に勧められて応募したそうで、自分が初代「みやーがーる」に選ばれたと知った時は信じられない気持ちだったそうです。



Profile 菅野美紀子さん

日本文学科3年。山形県城北高校出身。イメージカラーは白、のんびりとマイペースな性格、得意料理は和風ハンバーグ。将来の夢は「大好きな人と結婚すること」。目下、就職活動に向けて準備中です。

大学祭二日目の20日には、早速「みやーがーるちゃん」と一緒に学内を回った菅野さん。来場された方と握手をしたり、写真を撮ったりと交流を深め、アイドルさんながらの人気ぶりでした。

楽しんでもらえて嬉しかったので。今までにない経験でした」と充実した時間を笑顔で振り返ります。学生時代の忘れられない思い出になったようです。



翌日20日は学内で引っぱりだこ。来場者の皆さんと記念にパチリ。

実行委員会では、来年度も新たなスタイルで二代目「みやーがーる」を誕生させる予定です。お祭りや楽しいことが好きな人も、新しいことに挑戦したい人も、学年・学科を問わずぜひチャレンジしてみてください。次の「みやーがーる」はあなたかもしれません。

公式facebookページ <http://www.facebook.com/mgu.ac.jp>

タイムリーな情報発信とグローバルな交流の場を目指し、宮城学院女子大学公式facebookページが誕生致しました。ぜひ「いいね!」をクリックしていただき、国内外を問わず交流の場としてご利用下さい。また、災害時には緊急連絡ページとして大学から情報を発信致します。



編集後記

昨年の夏は連日30度を超える猛暑と過去に経験したことのない大雨が話題になりましたが、この冬は全国的に記録的な大雪続き。これはもうほとんど災害というべき事態でしたね。それはそうと、今年のソチオリンピック、仙台出身の羽生結弦君がSP史上最高得点で金メダルを獲得。昨秋の東北楽天日本シリーズ初優勝に引き続き、仙台に、被災地に、大きな喜びの春をもたらしました。さあ、この春宮城学院を巣立つ人も、新たにここで学ぼうという人も、みんな「雨ニモマケズ、風ニモマケズ、雪ニモ、夏ノ暑ニモマケス、丈夫ナカラダ」をもって、自分の信じる道を切り拓いていきましょう。

(M・F)

サークル紹介 02

演劇部

- 部員数：8名
- 活動日：月・水・金（公演前は月から金）
- 活動場所：小ホール、講義館の教室

舞台ならではの緊張感と達成感を味わう。

演劇は「難しそう」と敬遠されがちですが、実は演じる側も観る側もとても楽しいものです。

例えば、役者は役とセリフを与えられるだけでなく、自分で役づくりをしながら劇中で物語を動かしていく楽しさがあります。また、テレビドラマと違い舞台は全てリアルタイム。失敗できない緊張感とともに、やり遂げたあとの達成感は格別です。

役者とスタッフとお客様、みんなが一つに!

私たちは現在、年3回の公演を目標に活動しています。役者は(女子大なので)男性役を演じることもあり、その幅は広くやりがいがあります。また、スタッフは演出をはじめ舞台監督、照明、音響等に分かれ、一つでも欠ければ舞台は成立しません。

そして、一番大切なのが公演を観に来てくださるお客様。私たちにとって何より励みとなるお客様を探し、今日もみんなで元気に走り回っています。

日常生活では味わえない感動が舞台にあふれています。ぜひ一度足を運んでください。



役になりきって
演じます!



みんなでの
舞台を創る3300



部長
菊地 真緒さん
(人間文化学科3年)